

実践事例 2

「わたしたちの体育」を活用した実践例 ～6年生「自己ベストに挑戦！」（陸上運動「走り高跳び」）の学習を通して～

西伯郡南部町立会見小学校 岡田 勝彦

1 はじめに

走り高跳びの瞬間的な動きや空中姿勢などの自分では気づきにくい技能や基本となる動きについて、「わたしたちの体育」を活用した実践を行った。

2 児童の実態

本学級の児童（男子15名、女子22名）は、元気で運動好きな児童が多く、休憩時間には進んで外でサッカーやソフトバレーボールなどをして楽しんでいる。また、全校の取組みである朝のマラソンやなわとびにも積極的に取り組み、体力向上に励んでいる。学習前の児童の体育学習、陸上運動（走り高跳び）に対する事前アンケートの結果によると、37人中21人が体育学習が好き、ふつうが14人、嫌いが2人であった。また、走り高跳びについては、好き8人、ふつうが25人、嫌いが4人であった。走り高跳びが「楽しい」と感じている児童は、跳べた時の喜びや達成感、これまでできなかったことができたという克服感に楽しさを感じている。一方、「嫌いまたはどちらでもない」と答えた児童は、成功体験の少なさや跳べないことを友達に見られることを気にするなどを挙げており、基本的技術が身に付いていなくて、苦手意識もあり、友だちと関わりながら高め合っていく喜びや運動ができた楽しさを感じることができていないと考えられる。走り高跳びの楽しさを体感し、意欲的に学習に取り組めるように、走り高跳びの楽しさを「競争する楽しさ」や「自己目標記録を達成する楽しさ」ととらえ、めあて学習を展開したい。走り高跳びの4つの動作「助走」・「踏み切り」・「空中フォーム」・「着地」のそれぞれにおいて技能のポイントを「わたしたちの体育」を参考に学習した後、身長や走能力（50m走のタイム）から算出した個人の目標記録達成に向け、自己のめあてを考えて取り組んでいく。そして、タイミングよく踏み切った時の「身体がふわっと浮く感覚」を体感し、記録や喜びを高めることへとつなげていきたいと考えた。

3 授業の実践

	わかる	できる（生かす）			挑戦する
	1時	2時	3時	4時	5時
かわりあって学ぼう	・学習に見通しをもつ。 ・「わたしたちの体育」から ・オリエンテーション	・高跳びの一連の動きを知る。	・技能の4つのポイントを確認する。（助走・踏み切り・振り上げ足・抜き足）		・チームや友達の記録の伸びを知る。
	・学習の流れを知る。 ・目標記録設定する。 ・高跳びの技のポイントについて知る。	・3, 5, 7歩のリズム走で跳ぶ。 ・助走の軌跡について考えながら跳ぶ。	・高くとぶために自分の課題を意識しながら跳ぶ。	・同じ課題の友達同士での教え合いや声かけを行う。	・グループでの記録の伸びを競い合い、高跳びを楽しんで行う。
チャレンジ	初めての記録を計測する。	今日の自己ベストを記録する。	今日の自己ベストを記録する。	今日の自己ベストを記録する。	高跳び記録会

4 成果と課題

わたしたちの体育のp.14～16で4つの動作を理解し、気をつけることや自分の課題を見つける手がかりとなった。また、自己目標の設定、場づくりの参考にもなった。

今後の課題は、かわり合いの中で、意欲の向上につながる言葉かけや技能を高めるための細やかなポイント指導の在り方を追求し、全員が好きになる学習活動を行っていきたい。

